|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 自然災害と防災 | 教員名 | 福田　亘博 | 免許・資格との関係 |  |  |
|  |  |
|  |  |
| 授業形態 | 講義・演習 | 担当形態 | オムニバス |  |  |
| 科目番号 | CED6 | 配当年次 | １年次～４年次（後期） | 卒業要件 |  |  |
| 単位数 | ２単位 |  |  |
| 科目 | 自由科目 |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 |  |
| 科目 |  |
| 系列 |  |
| 一般目標到達目標 | 1. 自然災害発生のメカニズムについて学修・理解する。
2. 防災・減災対策について、行政・地域における現状と課題について学修・理解する
3. 発生した自然災害等に対して、危機管理のための手法について学修・理解する。
4. 救急救命に関する講習を研修することにより、必要に応じて迅速な救急救命対応ができる手法を身に付ける。
 |
| 授業の実施にあたっての準備事項等 |  |
| 授業の概要 | 宮崎県は、九州地方南東部に位置し、年間を通して温暖な気候に恵まれている。しかし一方では全国有数の雨が多い県であり、さらに夏季期間中には台風の直撃を受けるなど、風水害や土砂災害に悩まされてきた。また、宮崎は、近い将来、南海トラフの西端に位置する日向灘で起こる海溝型の地震である東南海・日向灘地震による大きな被害が想定されている。特に、過去の歴史をさかのぼると、日向灘地震は大津波を伴い、多くの犠牲者を出してきた。また、霧島連山では平成23年に新燃岳が噴火し、多くの被害が発生した。従って、これらの災害・被害等を最小限にするために、特に中学校・高等学校等の教員を目指す学生は、ソフト・ハードの両面から、自然災害が起こる仕組みや防災対策・情報等を事前に知ってしておくことは極めて重要となる。本講義では、「命は自分で守る（自助）」「地域で活動する（共助・協働）」「災害発生のしくみを学ぶ（科学）」「災害に関わる情報を知る（情報）」「新たな減災や危機管理の手法を身につける（予防・復興）」の分野について、受講・学修することにより、災害発生の仕組みを理解し、ついで、防災・減災対策について行政・地域における現状と課題を取り上げ、さらには一旦発生した災害を想定した危機管理の手法を学修・理解する。本講義を受講した後、救急救命講習を受講し、さらに日本防災士機構による試験に合格し、所定の手続きを行った場合に防災士の資格認定が行われる。 |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義・演習は、国際教養学部のディプロマ・ポリシーに掲げる｢１．クリティカル・シンキング（批判的・分析的思考法）をベースにした高度な思考（比較、分析、総合、評価）能力を身につけている。３．課題発見及び問題解決能力を身につけている。｣を育成する科目として配置している。 |
| 授業計画 | 自然災害と防災は以下の計画に沿って実施する。第１回 ・オリエンテーション：福田亘博・レポート：近年の自然災害に学ぶ 第２回・講義：防災士の役割：芝崎　敏之（NPO法人宮崎県防災士ネットワーク前理事長）・レポート：身近でできる防災対策第３回・講義：地震の仕組みと被害：原田　隆典（宮崎大学名誉教授）・レポート：被害想定とハザードマップ第４回：・講義：津波の仕組みと被害：村上　啓介（宮崎大学工学部教授）・レポート：避難と避難行動第５回： ・講義：風水害と対策：岩﨑　征弘（国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所技術副所長）・レポート：耐震診断と補強第６回： ・講義：火山噴火のしくみと被害：清水　収（宮崎大学農学部 教授）・レポート：都市防災第７回： ・講義：救急救助技術を身に付ける：長友　正（宮崎市南消防署　署長）・レポート： 防災訓練・レポート：火災と防火対策第８回：・講義：行政の災害対応：外山　慎也（宮崎市危機管理部　地域安全課　主任主事）・レポート：災害と応急対策第９回：・講義：災害とボランティア活動：大山　晃代（宮崎県社会福祉協議会　地域福祉部　地域・ボランティア課　主査）・レポート：避難所運営と仮設住宅の暮らし第１０回：・講義：土砂災害と対策：篠原　慶規（宮崎大学農学部　准教授）・レポート：災害とライフライン第１１回：・講義：災害医療：熊谷　泰治（宮崎市郡医師会病院　人事課　主査）・レポート：災害と交通インフラ第１２回：・講義：災害情報の入手と活用：粉川　真一（MRT宮崎放送局　アナウンサー）・レポート：災害と危機管理・レポート：災害防災と事業継続計画第１３回：・講義：地域の自主防災活動：出水　和子（一般社団法人みやざき公共・協働研究会　理事）・レポート：災害と流言・風評第１４回：・講義：公的機関による予報・警報：所　克博（気象庁宮崎地方気象台　次長）・レポート：地震に関する知見・情報第１５回：・講義：災害と損害保険：木舟　作楽（日本損害保険協会九州支部　事務局長）・レポート：地域の復旧と復興第１６回：日本防災士機構・福田亘博・防災士資格試験 |
| 履修条件・注意事項 | 受講に際しての留意事項：1. 日本防災士機構における規程等で授業計画を編成しており、受講者は100人以上であることを基本とする。また、第16回目の日本防災士機構による試験では、50人以上が受験する場合に実施する。
2. 防災士資格取得には、救急救命講習の受講と本講義の終了後に行われる防災士資格取得試験に合格することが必要である。
3. 防災士資格試験を受験するためには、全ての講義に出席し、講義のレポート及びレポートとして課された課題に対するレポートを全て提出する必要がある。なお、学則等で規定された公欠の場合にも録画した映像による受講とレポート提出が条件となっている。
 |
| 協力体制 | 本講義の講師は、「命は自分で守る（自助）」「地域で活動する（共助・協働）」「災害発生のしくみを学ぶ（科学）」「災害に関わる情報を知る（情報）」「新たな減災や危機管理の手法を身につける（予防・復興）」などの自然災害と防災に関連する公共機関等に所属する専門家による協力体制で講義を実施する予定である。 |
| 学生に対する評価 | 毎回のレポートによる学則・履修規程に沿った成績評価（秀・優・良・可・不可）及び日本防災士機構による資格試験結果（80％以上の正解率）により防災士資格が授与される。 |
| 授業外学習について | 受講するにあたって、教本を必ず一読しておくこと。また、レポートとして課された課題について、所定の期日（事前・事後）までに必ず提出すること。このため、毎日３時間以上の授業外学習を行うこと。 |
| テキスト | 防災士教本（認定特定非営利活動法人　日本防災士機構） |
| 参考書・参考資料等 |  |
| 担当者からのメッセージ |  |
| オフィスアワー | ・福田亘博：教育学部長としての職席上、曜日・時間等を明記できないが、必要な場合メールによるアポイントを取って来室すること。 |